

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900033		
法人名	社会福祉法人 つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ほっとスマイル【だんらん】		
所在地	〒021-0821 岩手県一関市三関字小沢47番地2		
自己評価作成日	平成28年2月14日	評価結果市町村受理日	平成28年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gvosvoCd=0390900033-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>※毎日、利用者さん、職員が笑顔が絶えない、笑い声が響いている明るい職場である。 ※利用者さん全員が参加できる行事を積極的に取り入れている。 ※利用者さんと関わる時間を大切にしている。 ※毎月行われる施設内勉強会では、利用者さんのその時の状態の変化に応じた内容を取り上げ情報を共有し知識を深め日常の支援に活かしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・共有のホールでは、利用者と職員の会話と笑い声が聞かれ、利用者も職員も活き活き生活出来ていることが窺われる。 ・医療については、家族も高齢化し、家族の希望で訪問診療を導入、利便を図っている。調剤薬局の薬剤師を講師に、薬について勉強会を開催している。また、配達をお願いし、薬剤の指導を受けている。 ・地域の理解が深まり、区長からの提言の外への非常ベルの設置をしている。また、裁縫やオカリナ演奏等、ボランティアの協力を得ている。また、移動図書館を園庭に招き、利用者は喜んで利用している。 ・それぞれのユニットの管理者は、ユニットの特徴や個性を把握し、職員と一緒に利用者の生活を支援している。だんらんユニットは、主にグループの力動を活用し、みのりユニットは、利用者の訴えが多く、個別支援に配慮した運営に努力している。職員は、個別支援にも向上心を持って取り組み、質の高いケアの提供に努力している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員から意見を出してもらい理念を決めた。玄関・事務所・トイレに掲示し常に目にできる環境をつくり実践できるよう努めている。	理念「明るい笑顔のたえないホーム」は、職員で決めた。また、管理者が、本年度のリーダー研修の自施設でのテーマに理念を取り上げ、具体的に考える機会となり、理解が深まっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアを積極的に受け入れたり、近所の方に野菜を頂いたり地域との交流を図っている。また夏まつりの子供みこしを園庭で見学し交流している。	地域との交流が続いている。運営推進会議の元委員が、友人5、6人で裁縫のボランティア(小沢隊)として来訪し、利用者と清拭タオルを作っている。オカリナ演奏もボランティアである。また、区長から、避難訓練で非常ベルが地域に聞こえるようにと意見があり、外側にも非常ベルを設置した。回覧板を、利用者と一緒に、隣家に届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、広報の回覧などの機会を利用して発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の方にも参加していただき、利用者さんの状況を報告し、ご意見・ご要望をいただく機会にしている。	運営推進会議には、利用者が委員として参加し、事業報告の行事の写真をしながら、「行って来た来た。」などと他の委員と会話している。また、裁縫のボランティアについては、委員から協力の申し出があり、小沢隊として継続している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者さんとの面会、介護相談員の訪問、運営推進会議の担当者等と情報交換を行っている。	市とは、運営推進会議に担当者が参加し、情報を提供して頂いたり、窓口に出向いて相談したり、協力関係が出来ている。また、生活保護の担当者とも、窓口に出向いたり、電話や来訪時に相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人の母体施設でのケアマネジメント委員会に参加し、事故報告書・ヒヤリハットの報告書で情報を共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、法人全体の研修会やユニット毎の研修で、年1回テーマに取り上げて理解を深めている。新人職員には、スピーチロックの研修を行っている。また、ひやりハットや事故報告で対応策を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会で取り上げ、虐待について理解すると同時に利用者さんに対しての声かけを掲示し虐待が行われないよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会を通して理解するよう努めてはいるが、現在活用している利用者の方がいないため更なる知識習得が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いた環境で丁寧に説明するよう心がけている。利用者さんやご家族の不安や疑問を解消した上で契約できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話・運営推進会議などで話しやすい環境づくりに努めご意見・ご要望を聴く機会を設けている。行事の案内を通してご家族や地域の方々に参加していただけるようにしている。	家族とは、面会時や電話・運営推進会議で意見を聞いている。訪問診療についての要望があり、医師を紹介している。ホームの広報(ほっとスマイル通信)の担当者欄に、個々の利用者の生活状況や小遣いの残額等を記入し、送付している。来訪時には、小遣い帳を確認して貰っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アメーバ経営に取り組んでおり職員からの意見や提案を発表する機会があり実践するよう努めている。	アメーバ経営に取り組んでおり、職員から経費節減の意見が多くなってきている。また、職員からの意見で、日々気づいたことを記入している職員連絡ノート他に、ケアに特化した「ケアに関する申し送りノート」を別に作成している。また、車いすやベッド等の必要物品の提案が反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力・性格を把握し、助言し、各々が向上心を持って働きスキルアップできるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内学習会を通して職員の問題意識を明確にするとともに施設外の研修会にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	アメーバ経営導入後法人内のグループホームと情報交換の機会が増えている。法人外の交流は両隣ブロック定例会などに参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームについて説明するとともに実態調査時施設での不安や要望を聞き安心して利用していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学を勧め不安に思っていることなど要望をできるだけ詳しく聞き、ご家族の意向や思いを受け止め対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・担当ケアマネージャーからの情報を聴き職員間で情報を共有し「その時」必要な支援を行えるよう努めている。また意思疎通が困難な利用者の方に対しての関わりも積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を通して各々の出来る事・やりたい事を尊重しながら役割を見つけ家事手伝いを中心に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話、毎月のほっとスマイル通信で近況報告し、通院の付き添いをお願いし、状態を理解して頂き共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・知人の面会時ゆっくりお話ができるよう支援している。馴染みの美容院へ通ったり入所前に住んでいた家に行ったりできるよう支援している。	面会時は、お茶や菓子を提供している。同級生が数人で面会に来ている方もいる。理容は、訪問理容を利用している。美容院は馴染みのところに行っている。以前、住んでいた家には、職員と一緒に中に入り、「此处にこれがあった」など思い出し、喜んでいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの性格を把握し、関係が円滑になるよう目配りしており、利用者さん同士声を掛けあえる環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談や意向を聞きながらできる限りの支援を行うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に添えるよう入浴時など1対1になる時にお話ししやすい環境をつくりご本人の希望を聞き出せるような雰囲気づくりに努めている。	入浴時や排泄介助時など、1対1になる時に、昔働いたことや兄弟のこと、戦争当時の話等をし、生活歴が把握できる機会となっている。発語が困難な方は、動作や表情に注意し、確認している。入浴したくなくて、「風邪引いている」と言う方の本音に気付くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査に限らず本人やご家族から情報収集を行い、センター方式を利用しこれまでの暮らし等を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや業務日誌で状態を把握し職員が共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時にカンファレンスを行い、利用者さんの状態を把握した上でご本人やご家族の意見を反映させながら介護計画を作成するよう努めている。	介護計画については、ほっとスマイル独自の様式を使用している。計画に基づいて、毎月1回担当者が振り返りを記入し、職員ミーティングで話し合い、評価・見直しをしている。計画は、6か月毎にケアマネジャーが作成し、家族に説明している。サイン出来る方は、本人にサインして貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたチェック項目を活用し、実践できたか・現状や気付いたことを毎月担当者が記入している。職員連絡ノートなどを活用し情報を共有しており介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出・外泊を実施したり通院の付き添いの支援をしている。移動図書館の利用や季節ごとのドライブなども支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院・各種ボランティア(調理・オカリナ・踊り・裁縫)の受け入れを行いおのびのび楽しく生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の方の希望するかかりつけ医や訪問診療を利用し状態を報告し適切な医療を受けられるよう支援している。	通院は、家族の付き添いを原則としているが、遠方の方、都合つかない場合や緊急時は、職員が対応している。また、家族からの要望で、訪問診療医に変更した方もいる。受診時には、医師に生活状況等の情報を提供し、医師からは口頭で指示を頂き、申し送りノートで共有している。家族にも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の勤務であるため看護連絡ノートを活用し周知徹底に努めている。通院介助をお願いしかかりつけ医との連携を担っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の施設での生活の様子をアセスメントを元に情報提供を行っている。入院中も面会を密に行い情報交換を行い早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からの話し合いはできていないが、その時にできる支援(訪問診療や他施設の情報提供)をご本人やご家族に説明している。	これまで、ホーム内での看取りの経験はない。入居時に、重症化した場合の、訪問診療や施設利用の支援について説明している。	重度化や終末期の事態に備えて、ホーム内で介護技術、医療面の研修を継続されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習会を定期的に行って行けるよう努めている。急変時の対応については施設内勉強会などで学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(日中・夜間想定)を実施している。外部ベルを設置し地域の方の協力を頂けるようにしている。	2ユニット合同で、定期的に避難訓練を実施している。区長から提言のあった、非常ベルを外部に設置している。備蓄している食糧品・水等について、消費期限を確認し、交換している。	夜間の訓練を実施し、夜間体制での課題を確認されたい。運営推進会議の委員や隣人等、地域の協力を得て、訓練を実施することを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として1人1人を尊重し個々に応じた声かけ、接遇に努めている。 契約の際に個人情報の使用の同意を頂いている。	利用者への声かけの際は、名前に「さん」付けで明るく声をかけている。職員は、「あんだ」とか、「寮母さん」、「職員さん」と呼ばれており、名前を覚えている方は(職員の)名前で呼んでくれている。常に入居者さんと同じ目線で、会話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時間・服の選択・おやつ・食事など本人の希望を話せるような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望にそって裁縫・食事作りの手伝い・読書・歌番組の鑑賞など1人ひとりのペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容・入浴時の着替えの選択など日常生活の中で支援できるよう努めている。また、敬老会には正装し、化粧をする機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの食べたいものを聞き献立に取り入れられたり、嗜好を活かしながら準備・盛り付け・配膳・食器拭きなど利用者さん中心に役割を担っている。	献立はユニット毎に、魚がいいのか、野菜がいいのか、と利用者へ聞きながら、その日決めている。食事の内容については、法人の栄養士の指導を得ている。1食10品以上の食材を使い、訪問日は、それぞれカレー、とオムライスを中心に、サラダとスープで10品以上を使用している。職員も一緒に食事し、会話と笑い声に満ちている。利用者は、食材の準備、食器拭きを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1食に10品以上の食材を使うようにしている。定期的に法人内の管理栄養士に献立を見て頂き助言を頂いている。検食簿を見直し食事量・水分量の把握に努め好みのものを提供するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口臭予防にうがい液を使用したり、口腔スポンジを使用したり、1人ひとりに応じた対応を心がけている。また夜間は義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックを行い排泄パターンの把握に努めている。自分から訴えができない利用者さんのサインを見逃さないよう努めている。	排泄チェック表で、個々の排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。言葉で確認出来ない方は、そわそわしたり、ズボンを触ったり等の動作で把握するようにしている。トイレに温タオル(保温器)を常備しており、排泄後は、温タオルで清拭している。利用者は、温かいと喜んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時、乳酸菌飲料・昼食時、ヨーグルトにオリゴ糖、食物繊維の多い食材やセンナ茶を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を聞き希望に添えるよう努めている。入浴したくないときは無理に勧めず翌日に入浴できるよう支援している。状態に応じシャワー浴や足浴も行っている。	お風呂は、毎日入れるよう準備している。入浴は、2~3名の利用者を日勤者や、遅番者が対応にあたっている。入浴を嫌がる時は、翌日に約束したり、明日は通院だからと説得している。入浴しない日は、足浴をし、清潔を保持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に居室で休んで頂くよう声がけしたり誘導している。日中の活動を通して夜間に安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回同じ薬剤師の方に配達をお願いし、服薬時の注意点や副作用についてアドバイスを頂き、情報交換を行い、変化に早期発見できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じたレク活動や家事手伝いなどを支援している。日常生活の中で笑顔が自然に引き出せるような雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と買い物に出掛けたりしているが、ご家族に協力をお願いし外出・外泊なども行っている、ご家族との通院の帰りや、親戚の方や知人との外食も楽しみにしている。	園庭を散歩している。椅子を置いて、時にお茶したり、外気に触れている。職員と食材の買い出しやおやつを買いに行っている。家族との外出や外泊を勧め、通院の帰りの外食を楽しみにしている。ドライブでは、事前に洋式のトイレがある事を確認している。蔵美溪、狛鼻溪、栗駒の雛まつり見物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの金銭能力に応じた支援をしている。自己管理されている方は外出時など自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や必要に応じて電話をかけたり、手紙やハガキを書いたりしている。携帯電話を事務所で管理している方もおり、かけたい時にかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下などに季節を感じる装飾を飾り、冷暖房の温度調節に気を配り、夏期は窓を開放し肌でも季節を感じてもらおう工夫をしている。冬期はこたつを設置し自由に使用出来るようにしている。	雛まつりでは、ボランティア小沢隊(裁縫)に、雛段の飾りつけをして頂いている。廊下の壁には、明生園(同法人特養)祭りに出品した作品を飾っている。冬期は、こたつを置き、食後にこたつでテレビ見ながら寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同士がトラブルにならないよう居場所を確保したり自由に話ができる環境づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みが可能なこと等を説明している。住み慣れた部屋にし落ち着いて生活できるよう布団やベッドなど好みのものを使用できるよう支援している。	エアコン、ベッド、ベッドマットレス、クローゼットが備えつけてある。寝具は持ち込みである。テレビ・小箆箆を持ち込んでいる方もおり、居心地良い雰囲気である。掃除は職員が行っており、整頓されている。職員と一緒に掃除をする入居者の方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりに応じた福祉用具を活用している。居室前に写真と名前を掲示し浴室とトイレも表示して、浴室とトイレわかりやすいように工夫している。浴室・トイレ・廊下に手すりを設置しており安全に生活できるよう支援している。		